

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102719		
法人名	医療法人社団 城山会		
事業所名	城山の舎		
所在地	熊本市西区域山下代3丁目2-6		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村報告日	平成30年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>城山の舎のグループホームは、IとIIの2ユニットあり夜勤各1名、待機各1名の体制、また、事業所の母体が医療機関であり近くにある為、医療との連携が速やかに対応できる。急変時も直ぐに医師に報告し指示を受け対応している。ADL維持の為個々の残存能力を生かした生活を送られている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	平成30年3月7日		

<p>医療機関、デイサービス、小規模多機能事業所等、関連施設に併設した事業所は、緊急時や終末期における医療体制が整っており、安全で安心な生活が営まれている。2つのユニットでは現状介護度に違いがあり、ケアの在り方もそれぞれである。職員は勤務形態により、基本とされる業務分担が決められ、統一したケアの提供が行われている。入居者の状態で日々職員の対応も変化するため、都度話し合いを行い、現状に即した業務分担を作成している。食事時間を含め大半をベッドで過ごす方も増え、個々に対するケアが多岐に渡る中、理念の言葉の一つである「思いやり」が窺える事業所であった。訪問時、日々の生活が自立出来ている入居者では当番で食器洗いや片付けをする姿も見られ、また食事時間には皆で「頂きます」と手を合わせ、職員と共に食事をする様子は家庭そのものの様であった。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員はそのりねんを共有して実践につなげている。	覚えやすく理解しやすい理念を基に実践をしています。掲示して振り返りを時折し自分を見つめ直し実践につなげていくようにしています。	理念は職員の共有が出来ており、介護計画作成にも理念を踏まえている。毎日の入居者へのケアにも繋がるものであり、職員間で考え、振り返りを行いながら、職員が自身で考える機会を持っています。	運営推進会議では構成員の交代時に理念の説明をされています。地域で入居者を共に支える観点から、年間計画に「理念」の項目を入れて事業所の課題の共有に役立てて頂く事を望みます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域の方と利用者との交流を持ち、地域での行事に参加し交流を図っています。	高齢化等により、入居者の積極的な外出による地域との関わりは以前より減ってきている。デイサービス等の隣接事業所に地域からのボランティア訪問も多く、地域交流が行われていることから、催事時には入居者も訪問し、地域住民や利用者との交流を行っている。	隣接するデイサービス・小規模多機能事業所には、事業所退職者や地域ボランティアの訪問も多く、グループホームと併せた3事業所が地域そのものである様子が窺えました。盛んな交流が継続することに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	三和校区内三事業所のGHにて会議を行い意見交換会を定期的に開催している。より良い介護ケアにつなげている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ささえりあ三和さんの参加を毎回お願いしている。状況報告し意見、助言、協力を頂いている	運営推進会議では、事業所の活動報告の他、地域包括支援センターと地域の情報交換、認知症・看取りの勉強会等、多岐にわたる。会議終了後は、会議参加者が入居者を訪ね、触れ合いの時間もよく見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回、地域の代表からからなる運営推進会議にて状況報告し協力を得ている	運営推進会議に地域包括支援センターの参加があり日頃の様子を伝えており、会議を利用して協力関係の構築を行っている。市主催の研修、グループホーム地域ブロック会等に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠することなく身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむをえない場合は家族様と協議し同意を得て熊本市へ報告している	玄関に身体拘束をしないケアの宣言を掲示しており、事業所全体で取り組んでいる。やむを得ない事例が考えられる際には、職員・家族で協議し検討する等、カンファレンスを重ね、対応を決めている。	
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会を事業所内で行い防止するにはどうするか常に考え介助している。言葉による虐待が無いように会議で話し合いをしている		

城山の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護について理解出来ているが研修に参加できていない。現在、制度を利用している方はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い理解を頂いている。不安や疑問点については説明し理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は権利擁護について理解出来ているが研修に参加できていない。現在、制度を利用している方はいない	日常的な家族の面会も多く、職員からの声掛けを行い、意見や要望を得る機会としている。近年高齢化がすすみ、入居者からの積極的な要望が減ってきたので、家族からの意見・要望を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の城山会合同管理者会議にて管理者と代表者の意見交換会実施している	開催周期は異なるが、各ユニットで行うカンファレンス時には、ケアについてだけでなく職員の意見等も出すことができる。勤務形態により業務の役割分担「日課表」が明文化されており、入居者の状況を考え、会議では職員の意見をもとに、業務・ケアの在り方の見直し・改善を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の日頃の努力や実績、勤務状況を把握している。相談ある時はじっくり聞く時間を設けて向上心をもって働くことが出来るように環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自希望に沿う研修、勉強会に参加し研修報告書を提出して全員で研修内容を把握している。資格取得の手当もある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同研修・救急の対応、消防署主催に参加、熊本市のブロック会の研修に参加しサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各個人のニーズを理解し、個々の対応をしている。安心安全の確保をするための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に家族様より情報で困っている事や不安なこと要望等に耳を傾けるながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時や電話で家族様と情報を共有しながら家族様の要望や必要なケアを見極めサービスに繋げている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは見守り、残存機能が維持出来るように努めている。簡単な作業、掃除、洗濯物干し、茶碗拭き等していただき共同生活を支えあい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に本人様の気持ちを伝えて家族様と共に過ごす時間を持てるように支援をしている。面会時は居室で過ごして頂くように促す		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問や電話、手紙等あった場合全て受け入れる関係が途切れないように支援に努めている	入居前からの友人・知人の訪問や、慣れ親しんだ祭りの慰問等が継続している。入居者の外出頻度は減ったが、隣接するデイサービスや小規模多機能の催事には出向き、来訪者との新たな馴染みの関係も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し職員が間に入り歌を楽しんだり交流に努めている。トラブルの無いように見守り支援している。		

城山の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み yuu	契約終了後も気軽に立ち寄っていただけるように声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の考えや意志を家族様へ伝え希望が叶うように支援をしている	以前より入居者の思いや意向、意欲が見られなくなってきた。入浴や食事時を利用し得た意向は家族とも共有し、内容によっては介護計画にも盛り込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や本人様よりこれまでの生活を傾聴し生活歴を確認しこれまでの生活のなかで大切なものは何なのか把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調を考慮し日中はなるべくリビングで過ごしていただき、昼夜逆転を防ぎ不穏なく暮らしていただけるように努めている。お手伝いをお願いしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを週1回行い本人様が楽しい生活を送る為にはと話し合いを行っている。変更時は家族様へ説明をしている。	カンファレンス時の職員の意見や入居者・家族の意向を確認し、介護計画に反映している。介護計画作成者は、理念を念頭におき、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	き毎日の申し送りやミーティングでその都度話し合いをし情報の共有をし介護計画に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行によりその都度対応については話し合い、家族様にも説明を行っている。		

城山の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に民生委員さん地域の方と利用者様と交流ができる機会を設けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の母体が医療機関でかかりつけ医とされている。定期受診助、往診にて医療連携にて支援出来ている	内科・歯科は殆どの入居者が協力医の往診を受けている。その他専門医や緊急の場合、通院が可能な入居者は、職員又は家族協力での通院も行う。かかりつけ医は入居者の体調急変時には即時対応可能で、安心できる環境である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が看護記録をし状況を把握している。担当看護師不在時は城山会の看護師が適切な対応をしている。変化あったときはかかりつけ医に連絡報告し対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療必要な時は医療機関に情報を提供し安心して治療出来るように協力している。退院後も情報を共有し本人様を支えるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り介護関するに同意書」を入居時点で説明している。重度化した場合、延命治療するのか、いつか訪れるその日を家族様へ伝えて考えて頂いている	入居時に重度化や終末期についての説明及び同意を得ている。実際にその時を迎えたら、家族・医療機関・事業所と協力し、支援を行う。職員は、看取り・エンゼル処理についての研修を受け、マニュアルも整備しチームとして取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、事故発生時の対応を事業所内の研修や消防署指導の救急の仕方等受けて実践力を身につける研修に参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を法人で実施し災害に対応出来るようにしている。地震後マニュアルの見直しをしている。	防火訓練以外にも、洪水に備えた自営水防組織も決められ、役割分担も明確にされている。熊本地震の経験から備蓄を始め、断水に備えて浴槽に水を貯めておく等、マニュアルの見直しを行った。	

城山の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを大切にして人格を尊重し誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている	職員は入居者一人ひとりを大切に言葉かけやプライバシーに配慮した対応を心掛けている。運営推進会議の資料で入居者について報告を行う際には、イニシャルを使用し本人を特定出来ないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションの中から入居者の思いや希望をくみ取っていくように傾聴している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った一日を過ごせるように支援をしている。一日の流れはゆっくり流れいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は身だしなみを整え、食堂へ出てきて頂いている。定期的に訪問カットを実地している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好物をメニューを取り入れている。残存能力を活かして準備や片付けをしている	各ユニットそれぞれ、入居者の好みも考慮した献立を職員の手作りで提供している。入居者の身体状況もそれぞれで、きざみ・ミキサー・とろみ食で対応している。食事作りからの関わりは難しくなってきたが、後片付けには出来る範囲での関わりがあり、当番制で茶碗洗いの姿も見られる。	食事作りへの関わりが少なくなった中でも、食事開始時には「いただきます」を皆で声を揃え、食事を大切にすることが見えました。出来る範囲での関わりの継続に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床時の水分補給、食後のお茶内服介助時も白湯を用意し飲用していただく等水分補給に努めている。毎食摂取管理チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは声掛け見守り誘導介助を行っている。義歯管理は夕食後回収し洗浄管理している。今年度より定期的に訪問歯科にて口腔ケア管理実地		

城山の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前食後定期的にトイレ誘導し汚染につながらないように支援している。	全体的にオムツの使用も増えてきている。出来るだけトイレでの排泄を支援しているが、オムツ等の使用を検討する際は安易に行わず、職員で話し合いを重ねている。ケアの在り方について話し合いを重ねることで、パットを小さくできた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理表で管理し必要な方には下剤を与薬している。水分補給に努め献立の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表はあるが体調や汚染を考慮し入浴をして頂いている。入浴剤を使い楽しめる時もある。	週2回の入浴を基本としており、汚染時には入浴で清潔保持に努めている。職員の介助も多くの入居者が必要となってきたが、シャワー椅子等も利用し、気持ちよく過ごして頂くよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく休めるように室温調節を個々のニーズに合わせている。リビングで過ごしたり、居室で過ごしたりと自由にして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を直ぐに確認出来るようにカーデックスにて管理している。服薬時は飲み込み確認をし個々にあわせて与薬の工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の出来ることを日々の生活の中から傾聴し役割のある生活を送って頂いている。気分転換におやつ作りを一緒にすることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様の協力にて外出をすることもある。以前住んでいた家へ一時帰宅される事もある。お正月は子供さんの家へ外泊される事もある。	医師の診察により車椅子利用が増えてきたため、事業所全体での外出は難しくなってきたが、個々での散歩や外気浴を楽しんでいる。家族協力での外出や外食もみられる。隣接事業所の催事時には出来るだけ参加している。	

城山の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は難しいので家族様管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ電話を掛ける等対応している。外部からの電話や手紙も取次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をして清潔を保ち、季節感を味わっていただけのよに壁に飾り絵を貼っている。歌番組のDVD、水戸黄門を個々のニーズに合わせて流している。	掃除の行き届いた共用空間は、季節の飾りや行事時の写真、季節の花が飾られ、入居者・来訪者の目も楽しませている。車椅子使用が増えていることから、移動がしやすい様配慮している。時には入居者によるモップかけや掃除機掛けの姿も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室内で自由に過ごされている。自ら塗り絵をされている入居者様もいる。共用のリビングではソファに座りTVを楽しまれている。一緒に歌を歌って楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より使用された愛着のあるタンスや布団を持参され使用されている。仏壇を持参されお参りをされている方もいらつや	使い慣れた生活用品や仏壇等が持ち込まれ、思い思いの部屋が作られている。ベッドで過ごす時間が長い入居者には褥瘡予防のためエアマットを使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「個人名」を記名し分かりやすくしている。居室は徘徊される方のためにタンスは収納庫内に置き安全対策を図っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102719		
法人名	医療法人社団 城山会		
事業所名	城山の舎2		
所在地	熊本市西区城山下代3丁目2番6号		
自己評価作成日	平成30年2月14日	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成30年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

城山の舎グループホームは、1と2の2ユニットあり、夜勤各1名、待機1名の体制にて、対応ができています。また、事業所の母体が、診療所である為、医療との連携で、緊急時、急変時に対して、対応ができています。同一法人内に小規模多機能、デイサービスなどがあり、行事や慰問がある際は、参加している。希望者は、医療との連携により「看取り」をおこなっている。運営推進会議にて、地域住民、地元の関係者とつながりがとれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやり、さりげない支援」を職員が見やすい場所に提示しており、常に思いやりを持ち利用者様に声掛けをおこなっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に利用者様も参加する機会をもち交流をはかっている。また、近隣の方がボランティアで踊りとかにこられた際は参加をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の勉強会、年に1度の地域の方にむけた認知症の勉強会の開催に協力し受け付けなどをし、参加している。また、定期的に職員と院内研修をおこなっており、認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、状況報告などをおこなっている。また地域の情報などを発信していただき、地域の情報を把握できている。運営推進会議で意見がでたら、職員と話し合いサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は取れてはいない。質問等があれば、市町村に電話にて連絡をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はおこなわない取り組みをおこなっている。玄関の施錠は夜間のみおこなっている。日中はおこなっていない。身体拘束が必要な場合は、家族様に説明し同意を得るようにし、市にも報告をおこなう。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を年に1回おこない職員の意識を高めるようにしている。		

城山の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回外部で研修があれば、外部研修への参加なければ、院内研修をおこなっており、権利擁護について、職員が学ぶ機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、管理者より、入居時利用者様家族様に十分な説明をおこなっており、不安や疑問点を聞いている。不安や疑問があれば相談に乗り、解決を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所玄関口に意見箱を設置し家族様の要望を聞けるようにしている。また年1回家族会を開催し、意見や要望を伺っている。意見や要望が出た際は職員で話し合いをおこなっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度カンファレンスをおこなっており、その中で提案や意見が出た際は、皆で話し合いをおこない反映させている。施設長に管理者より職員間で話し合った意見を報告することもある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を持っている職員には資格手当がついている。有給や休み希望は職員の要望に答えている。休みを取れやすい環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修はおこなっている。内部の研修の機会を設けている。外部研修があれば、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三和地区3事業所で、年に何回か集合し情報交換困難事例の検討会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人様家族様にお話を聞き本人様家族様の要望に近づき安心して生活できるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様の意見、家族様の希望や意見に耳を傾けながら、必要としている支援をおこない安心して利用者様が生活していけるようにしている。家族様との関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様家族様の必要としていることに耳を傾けそれに添う様なサービスを提案し、対応をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が輪に入り、利用者様同士で、コミュニケーションをおこなえる環境をつくったり、誕生会や催し物を利用者様で、楽しめる機会を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠くにいらっしゃる親族様からの問い合わせがあった際は本人様の現在のご様子などを伝えたり、家族様にはなるだけ面会にきていただけるようにお話をしている。入りやすい環境整備に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の遠方にいらっしゃるご家族様から電話があるときは、近況を伝えている。ご家族や親戚の方がいつでも本人様と会えるよう面会をお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がお話ができるように職員が中にはいり、利用者様が孤立しないようにしている。また誕生会や行事などを通して、利用者様の関わり合いができています。		

城山の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族様の相談や困りごとがあればのっている。家族が居ない方は病院へ面会に行ったり、フォローをおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いや暮らし方の希望を傾聴し本人様の希望に添う暮らしができるように支援をおこなっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初の時点で家族様にアセスメントをおこない、スタッフ間で情報の共有をおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況、本人様の状況など申し送りを毎日しており、職員全員が把握できている。問題点は会議にて、検討会議を開いて話し合いをおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でカンファレンスをおこなっており、家族様入居者様の要望を傾聴し、皆で意見を出し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の支援内容を基に支援できているか確認しながら、入居者様のその日の状況を個人別の介護記録に記入し情報の共有をおこなっている食事、排泄、服薬についてチェック管理し身体の情報把握に努め実践し、計画の見直し検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時、急変時、病気の時など母体が病院の為状況に応じて対応ができているまた緊急時は迅速に病院に連絡がとれる体制ができている。他の事業所より看護師の応援など柔軟に対応できている。		

城山の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にスーパーや小学校等がありますが、なかなか行けてはけません。近隣に病院等がたくさんあり、そちらには、受診ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、連携がとれるようになっています。歯科往診もあっており、お互いに情報の共有が図れています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携にて、看護師が日頃から健康管理をおこない指導をおこなっている。また利用者様の状態の変化などは、看護師に知らせている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合は病院に入居者様の情報提供をおこなっている。また、病院と密に連絡をとっており、退院時に病院でカンファレンスがある際は行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時看取りについては、十分に説明をおこなっており、同意を得ている。重度化、終末期には担当医、家族、管理者で話あい相談をおこなっており、看取りの同意書内容も再度確認をおこなっている。カンファレンスを職員間でおこないながら、チームで支援をおこなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は、昼夜を問わず母体である病院に連絡し状況報告し指示受けしている。また年に1回は消防署に来ていただく食員の研修として、救急法やAEDの使用の方法を研修していただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルがあり、職員は危機管理をもつように心掛けている。年に2回の防火訓練をおこなっており、消防のOBの指導を受けている。城山会では、消防隊やスプリンクラー設置、自動通報装置設置済みで、災害対策に取り組んでいる。		

城山の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しており、オムツ交換時は扉を閉めてプライバシーを心掛けています。利用者様には、常に笑顔で接し利用者様が言われることには否定しないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けをおこない本人様の希望を聞いて自己決定ができるように支援をおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は毎日同じ曜日ではなく利用者様の体調や気分などを考慮して決めている。利用者様によって、寝る時間や居室で過ごす時間が違うので、利用者様に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の理容を利用しており、利用者様に合わせた髪型、希望の髪形にさせていただいている。化粧水やクリームなどを塗ってほしいと言われるご利用者は介助にて、塗っている。起床時なども整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物を傾聴し、食事作りをおこなっている。クリスマス会や敬老会には行事食を提供しており、おいしくいただいております。誕生会には皆で、ケーキや甘い食べ物を食べ楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をあまりとりたがらない利用者様もいらっしゃるので、甘い飲み物や利用者様の好きな飲み物を提供したりしている。ムセがある利用者様にはトロミを入れたり、上手に飲めない方にはストローで飲んでいただいたり、なるべく水分を取れるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアをおこなっている。寝る前には、義歯を外してもらい、ホリデントにつけている。訪問歯科をご利用の利用者様もいらっしゃる職員や利用者様が口腔内の指導をうけることもある。		

城山の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行ける方は職員が行かれた際はパットの汚染の確認をおこなったり、見守りをおこなったりし、対応している。排泄の状況にあわせて、パットを本人様に合わせたパットにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維が多いものをとりいれたり、水分を多くとっていただけるようお茶だけでなく甘い飲み物を提供したりしている。また排便チェック表を記入し排便管理をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や本人様の意志を尊重し入浴拒否がある際は無理強いせず、時間の変更や日程の変更をおこなっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して、利用者様が安眠できるように空調の管理や寝具の調整、安眠できる環境作りに努めている。お昼寝の時間も設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を何を服薬されているかの個々の情報を職員の見やすい所に置いており、職員間のカンファレンス等で情報を共有できている。確実に利用者様が服薬できるように服薬管理表を記載して誤薬がないようにしている。心身の状況に変化がある際は医療連携にて、報告、相談、指示受けをおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会や行事などをおこない楽しく過ごしていただく時間を作っている。皆で、歌を歌うこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日は、車椅子を押して外を散歩することもある。		

城山の舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、家族様が管理されている。お金を持つことで安心する利用者様もいらっしゃる、そのような方は小額のお金が入った財布をもってらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が来た際は本人様に見せお部屋にしばらく貼っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、毎月の行事の壁紙を作成し、季節感を感じてもらっている。リビングや部屋は空調温度に気を配り、快適に過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	塗り絵を楽しんでもらったり、気のあった利用者様同士、同じテーブルに座って頂きコミュニケーションをとってもらったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には、家族様の写真を飾ったり、自宅でしようされていた、愛着のあるものをもってこられたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりがトイレ、浴室、リビングに設置され、安全に配慮し、立位、移乗時、移動時などに使用していただいている。PWCTイレが必要な方は、設置し、自力にて、排泄ができるように環境を整えている。		

2 目 標 達 成 計 画

城山の舎

30年 3月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		地域密着型の意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている。	城山会の理念「おもいやり、さりげない支援」の共有	運営推進会議で構成員交代時理念の説明をし会議時に必ず理念を伝える。『理念』をいれた年間計画を立てる。	6ヶ月
2		利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との交流を継続していく。	地域からのボランティア、訪問にて交流の継続をおこなっていく。散歩や買い物積極的にし、地域の方との交流を図る。	6ヶ月
3		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事片付けをしている。	食事を大切にし、楽しい食事時間の提供の継続	入居者様の残存能力を活かし準備や片付けをする。	3ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。